

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
(Ref No:26-05)

1 アジア開発銀行（ADB）の神田総裁は、5月3日から6日にウズベキスタンで開催された第59回ADB年次総会において、中東での戦争とそれに伴う燃料不足で動揺している太平洋地域の国々に緊急支援を提供する準備ができていると発表した。また、民間セクターを強化することが外的なショックに対する有効な緩衝材の一つであると述べた。

[原文](#)

(3rd May 2026, Reuters)

[原文](#)

(5th May 2026, PACNEWS)

2 パラオとインドネシアの間で、インドネシア漁船の拿捕を巡る緊張が高まっている。インドネシア政府は、当該漁船が自国の排他的経済水域（EEZ）内で操業していたと主張し、船舶と乗組員の解放を要請した。一方、パラオ政府は公式回答を控えたまま、裁判所の許可に基づき押収された約40トンの魚の売却手続きを5月1日から開始したが、いまだ外交的解決には至っておらず、パラオの裁判所での審理が継続中である。

[原文](#)

(1st May 2026, Island Times)

[原文](#)

(8th May 2026, Island Times)

3 5月6日、フィジーのランブカ首相は、豪州のウォン外務大臣及びコンロイ太平洋担当大臣とスバで会談した。両国は現行の「Vuvale Partnership」を「Vuvale Union」へ格上げする予定であり、同首相は、安全保障を“中心的な柱”として、二国間関係における大きな進展を示すものであると述べた。また、豪州側は、フィジーの燃料危機対応に3,000万豪ドルの予算支援を行う方針を表明した。

[原文](#)

(6th May 2026, RNZ)

4 5月6日、豪州とフィジーは、太平洋強靱化ファシリティ（PRF）を正式に批准した。同ファシリティは、草の根レベルや地域社会レベルで人々に影響を

与える災害レジリエンスプロジェクトへの資金提供を管理している。批准式には、太平洋諸島フォーラム事務局（PIFS）のワンガ事務局長も立ち会った。

[原文](#)

(7th May 2026, Islands Business)

5 NZ 政府は、来年自国で開催予定の太平洋諸島フォーラム（PIF）首脳会議に、米国、中国及び台湾を招待する方針を明らかにした。昨年のソロモン諸島での会議では、同国のマネレ首相の判断によりすべての援助国が排除されたが、NZ 側はこれを太平洋地域の主要な支援者と連携する機会を逃したとして強い失望を表明している。

[原文](#)

(6th May 2026, Island Times)

6 4月30日、パラオのペリリュー州の伝統的指導者たちが、米軍の使用に関連した土地賃貸借契約を巡り、ペリリュー州当局らを相手取り提訴した。原告側は、一族の土地に対する権利が無視され、法的手続きや適切な協議を欠いたまま契約が締結されたと主張している。

[原文](#)

(5th May 2026, Island Times)

7 太平洋共同体（SPC）による最新の報告書「太平洋諸島地域における漁業及び養殖業に対する気候変動の影響」は、地域的なトレンドに留まらず、気候変動が各国の領海・EEZ においてどう影響しているかを初めてデータ化した。海水温上昇による魚類の減少が、食料安全保障や国家経済へ及ぼす打撃を予測している。SPC のルコント氏は、本データが科学的に重要であるのみならず、漁業が海洋・気候変動問題の一課題であると示す政治的な意味も持つとしている。

[原文](#)

(7th May 2026, PACNEWS)

8 ミクロネシア持続可能な交通センターの最新の調査によると、過去10年間で7億ドル以上分もの船舶が太平洋島嶼国へ寄贈された。そのほぼすべてがディーゼルエンジンを搭載しており、低炭素代替手段で運航されているのは1隻のみである。専門家は、新造船に旧型より高い燃費効率を義務付ける地域政策の実施を提案している。

[原文](#)

(7th May 2026, Islands Business)

9 ホルムズ海峡におけるイランの支配は、これまで米国や国際社会が維持してきた「航行の自由」が突然揺らぎうることを示した。東南アジアにおいても、インドネシアのサデワ財務相が4月、マラッカ海峡を通過する船舶に通行料を課す可能性に言及したが、このような議論をすること自体が、中国の圧力に対抗しながら維持してきた海洋権益の根拠を弱体化させ、インドネシアなどの主権を損なう可能性がある。しかし、世界の覇権国がこうした動きを後押ししており、米国トランプ政権も、現代において航行の自由の重要性が低下しているとの考えを積極的に助長してきた。

[原文](#)

(6th May 2026, CFR)

10 2026年第1四半期のパラオの観光客数は24,379人に達し、前年同期比で39%増加した。国別では中国が36%で首位となり、日本(16%)、台湾(15%)、米国・カナダ(13%)が続いた。3月は新規訪問者が78%を占めており、リピーターに依存しない新規旅行客の誘致成功が示されている。

[原文](#)

(29th April 2026, Island Times)

11 4月27日、パプアニューギニアの空港当局は、ポートモレスビー国際空港にて香港行きの乗客の荷物から金塊20個を押収した。同種の密輸は昨年から相次いでおり、議会報告によれば、同国の外貨準備高の10%に相当する3億ドル分、8万オンスの金が毎年国外に密輸され、深刻な問題となっている。

[原文](#)

(4th May 2026, RNZ)

12 5月7日、ソロモン諸島の議会はマネレ首相に対する不信任決議案を議決した。マネレ氏は2024年5月に首相に選出されたが、本年3月に閣僚10名を含む主要連立政党からの大量造反があり、過半数を喪失。同氏は数週間に亘り議会の召集を拒んでいたが、控訴裁判所の判決を受け開かれた議会で、野党グループが主導する形で失脚した。新首相選出までマネレ氏が職務を継続する。

[原文](#)

(7th May 2026, RNZ)

13 4月10日から12日にかけて、超大型台風シンラクがミクロネシア連邦のチューク州を直撃した。シミナ大統領は非常事態宣言を発令。7人が死亡し、数千人の住民が避難を余儀なくされてから3週間以上が経過している。インフラ損傷や物流停滞により、飲料水等の物資不足や公衆衛生リスクが深刻化しており、被災地は甚大な被害からの復興に苦慮している。

[原文](#)

(7th May 2026, Pacific Island Times)

1 4 マーシャル諸島船舶登録局と米国沿岸警備隊の代表者が、4 月末にハワイのダイヤモンドヘッド灯台で会談した。直前に行われたマジュロ環礁での共同立入検査を含む訓練成果を共有するとともに、海上の安全性、環境保護、IUU 漁業対策などに関し、米国の支援を通じた監視能力の向上を確認。外国船の活動把握や法執行の強化により、海洋安全保障を推進する方針としている。

[原文](#)

(8th May 2026, The Marshall Islands Journal)

OPINION PAGES

PO Box 14, Majuro, MH 96960 or marshallislandsjournal@gmail.com



Registry strengthens ties with USCG leaders

United States Coast Guard representatives recently joined RMI Registry representatives for talks at the historic Diamond Head Lighthouse in Oahu, Hawaii. The meeting covered many maritime topics.



Hot topics included onboard activities occurring in Majuro

Representatives from the Republic of the Marshall Islands Registry met with representatives of the United States Coast Guard at the historic Diamond Head Lighthouse in Hawai'i to discuss mutual goals of maritime safety, security, and environmental protection.

The meeting immediately followed a weeklong operational training program which included conducting several joint boardings and port State control exams on reefers and fishing vessels in Majuro Lagoon.

The late April meeting included Rear Admiral Sean Regan, USCG Commander, Oceania; Captain Jennifer Conklin, Operation Blue Pacific Lead; Captain Erin Williams, Chief of

Prevention, Oceania District; Commander (CDR) Simone Mausz, Chief of Inspections and Investigations, Oceania District; CDR Jacob Paarberg, Chief of External Affairs, Oceania District; and George Butler, Passenger Vessel Safety Specialist. Representing the RMI Registry were Deputy Commissioners of Maritime Affairs, Charles Abraham, Brian Poskaitis, Guy Theriault, and Wesley Pannett.

The meeting covered a broad range of topics including United States Coast Guard (USCG) support of the shiprider program with RMI Sea Patrol; compliance and performance of the RMI fleet; USCG support and training of the RMI Environmental Protection Authority

officers in pollution response; port state control activities including an incident with a Panamanian-flagged vessel that entered the lagoon under Force Majeure; Illegal, Unreported, and Unregulated (IUU) fishing enforcement; ongoing maritime law enforcement training being conducted by USCG personnel within the Marshall Islands; and mass casualty and response drills and exercises.

Representatives also discussed findings from the week of training and joint boardings.

Maritime domain awareness and maritime security were hot topics including the contribution of the RMI port state control program in terms of

raising awareness of onboard activities occurring on foreign vessels in Majuro lagoon.

Joint boardings with other agencies assisting the port state control team provide better maritime domain awareness and real-time enforcement capability should any issue arise whether maritime safety, environmental protection, law enforcement and immigration, or a fisheries issue.

Representatives from the RMI Registry actively engage with port state control and coastal authorities worldwide on a regular basis to develop and strengthen working relationships, share information, and collaboratively support safe vessel operation.